

岩崎 純一 著

『岩崎純一全集』 第二十九卷「人文科学（二の九）」

心理、精神、身体、生命および倫理、道德、人間学（九）
心理および精神に関わる身体症状・障害、神経系疾患、先天奇形

編纂、監修

岩崎純一学術研究所『岩崎純一全集』編纂局

巻頭言

本巻は、『岩崎純一全集』の第二十八巻を成し、岩崎の言語の著作物のうち、心理および精神に関わる身体症状・障害、神経系疾患、先天奇形に関する述作を収める。

目次

巻頭言

第一編 〇歳～十九歳

第二編 二十歳～二十九歳

第一部 爆笑問題の太田光氏も閃輝暗点らしい

第二部 熊谷晋一郎

第三編 三十歳～三十九歳

第四編 四十歳～四十九歳

第五編 五十歳～五十九歳

第六編 六十歳～六十九歳

第七編 七十歳以降

第八編 著作者の一部および著作者が岩崎純一であるもの

第九編 著作者が岩崎純一であるもの

第二編 二十歳〜二十九歳

第一部 爆笑問題の太田光氏も閃輝暗点らしい

二〇一〇年八月四日 起筆、公開

二〇一〇年十二月二十六日 最終更新

僕は「閃輝暗点」という症状を持っていますが、なんと爆笑問題の太田光氏も持っているようで、以下のラジオのちょうど二分から、この症状を説明しています。

<http://www.youtube.com/watch?v=jOptJnUY6Ih0>

僕の症状は以下の通りですが、太田氏とほとんど同じですね。

……

両目の視界がチカチカし始め、様々な色が現れる。

←十〜三十分ほどで視界の全部または一部が欠ける。

←視界のチカチカが消え始め、完全に消えて再び目が見えた頃に、激しい頭痛が始まる。

←激痛は一〜三時間続く。

←学校の保健室（今は職場の机）で休む（寝る）。その後、早退するなどの対応をする。

……

僕の場合、閃輝暗点が起こるのは、次の場合です。

●女性の生理を感じたとき

（高校生のときは、女子生徒の生理を感じて保健室に直行しても、保健の先生が生理期間の場合、視界の乱れと激痛が二倍に。）

●極度の離人感に陥ったとき

（ICD-10において「離人・現実感喪失症候群」とされているものに該当すると思われる。）

……

昔は日本にも、生理期間中の女性を入れる生理小屋がありました。が、これは女性差別ではなく、「生理を感じた男が体調を崩して狩りなどに行けなくなるのを防ぐ策」だったという予想を、僕は持っています。

僕の持つ女性の排卵・生理感知の共感覚は、昔の男性なら皆持っていたと思います。同じような男性を見つけるのが、今の夢です。

（二〇一〇年十二月二十六日 追記…なんと今年中に、同じ感覚を持つ男児数人が見つかり、交流を持ちました。同世代の男性でも見つかると思います。）

閃輝暗点自体は女性に多く、心的外傷などによる脳の血管の急激な収縮・弛緩と言われますが、ニューロンそのものの変化という説もあります。

第二部 熊谷晋一郎

二〇一一年六月二十日 起筆、攔筆、公開

■おすすめ著作

『リハビリの夜』

東大で熊谷晋一郎氏と対談させて頂いたときに感じたのは、「いわゆる共感覚を有していらっしやるわけではないものの、氏の身体感覚・内臓感覚に関する達見には、私の及ばない点が多々あるのではないか」ということであった。だから、他の一流の哲学者・生態学者などと同列に、「人物評論」のページに挙げてみた。

対談でも、私の対女性共感覚を「エロティシズム」の観点からお話しさせていただいたが、氏の「身体内協応構造」と「身体外協応構

造」の二重性としての身体論は、私の対女性共感覚にも適用できると思う。

私は脳性麻痺ではないから、物理的に離れた女性に対する共感覚の発揮は、知覚上の問題であると同時に、観念上の問題でもある。しかし、熊谷氏の場合、全てが知覚上の問題である。だから、「腹ばい競争で女の子たちにおいて行かれるのが快感である」という主旨の書き方になる。

いわゆる健常者男性は、離れた女性をまずは観念で追いかける。いわゆる「愛の告白」とはそういうものであると思う。熊谷氏には、そのような「不純さ」がない。私は自分を、熊谷氏よりもずっと「不純な」男性であると思った。「観念による追いかけ」は、私の共感覚における一点の傷であるような気さえた。